

椎根 和 写真展

「対馬の磐座、磐境」



会場：ギャラリー イー・エム 西麻布
会期：2018年4月10日（火）～4月28日（土）
時間：12:00～18:00（日・月曜日休館）入場無料
住所：東京都港区西麻布4-17-10
電話：03-3407-5075

作品内容

九州と韓国の間でありながら、対馬は2000年以上も前から日本人が居住し、一度も外国の勢力に支配されたことのない離島である。それ故にこそ文化は、まず対馬に入ってきた。

対馬の人々は、水稲技術、亀ト・鹿ト（占い）などの新技術が入ってきた時の姿のまま、現在も保存・維持している。

対馬の人々の自然観・死生観は、現在の日本人に引きつがれている。いい石にめぐまれた対馬の人たちは、神は石に降臨し、そこに宿ると考えた。だから2000年以上も前に神を祭るものとして磐座（いわくら）磐境（いわさか）を創出した。この考え方は、天皇家の神道に大きな影響をあたえ、初期の皇祖神の墓には、磐座・磐境があり、うしろにひかえた山そのものを神体とした。そこでは石の橋も磐境としての意味がこめられた。

対馬には、日本人が神を祀るという意識をはじめて持った時代の、古代の造形感覚にあふれた構築物があちこちに残っている。

日本人が気づかなかった古代の遺跡を写真に残すのは、21世紀に生きる日本人の大きな役目だと思い、この写真展を開いた。

